

安全持続性能の家づくりプロジェクト（株式会社HAPROT）

背景	世代を超えて安心して暮らせる次世代住宅の必要性
	<ul style="list-style-type: none">・居住者の変化に応じて事故を予防し、長く安全に住み続けられる視点は制度的に十分とはいえない。・住宅内の転倒・転落事故は年間数十万人に及び、要介護原因の上位である「転倒・骨折」は介護費用の増大要因ともなっている。・国の住宅政策が目指すカーボンニュートラル・長寿命化・ストック活用と並行して、「世代を超えて安全が持続する住まい」という軸を加えることで、次世代住宅の社会的意義がより明確になる。

目的	住まいと健康の関連から新たな住宅設計の構築
	<ol style="list-style-type: none">1. 安全持続性能という新たな住宅性能基準を確立し、住宅内事故の少ない暮らしを全国に普及させる。2. 医療職の知見を住宅設計に取り入れ、住環境から生活を守る新たな仕組みを構築する。3. 専門家の助言を得ながら評価の妥当性を高め、社会的信頼と住宅業界への導入を推進する。

実証内容	生活習慣・住環境・身体機能・健康状態から検証
	<p>■「安全持続性能」を導入した住宅を対象に、住まいの設計要素が居住者の生活行動や快適性・安心感に与える影響を検証する。</p>

①居住者アンケート
・生活習慣（食事・運動・外出頻度・生活リズム）
・安全性・快適性（居室ごとの温湿度の快適度、滑りや段差の危険感、手すりや補助具の使用）
・身体機能・健康・心理（睡眠の質、疲労感や生活ストレス、住宅に対する安心感・不満点）
②住環境のアセスメント
・階段寸法・玄関段差・手すり位置
・照明・視認性・ドア幅・床材など
③温湿度モニタリング
・室内温湿度のモニタリングによる居住環境の可視化

